



## 開会宣言

2018年8月1日午前9時15分、ウィマー会長が開会を宣言した。

## 出席者確認

		WEDNESDAY
President	Sandi Wiemers	X
Vice President	Jean Patrick Rousset	X
Secretary	Jeff Johnson	X
Treasurer	Paul Rutten	X
Sport Administrator	Moto Tsuchiya	X
各国代表ボード:		
Australia	Ainslie Hunt	X
Canada	Joanne Moser	X
Czech Republic	Eva Baranova	X
England	Nicky O'Neill	X
France	Jean Patrick Rousset	X
Germany	Danny Neu	X
Ireland	Bernadette Doyne	X (GotoMeeting)
Italy	Stefania Lenzini	X
Japan	Noriko Sugiura	X
Spain	Hero Tello	X
Sweden	Amalie Nilsson	X
Switzerland	Alessia Dolci	X
USA	Karen Cammer	X

参席者：

- Alfredo La Mont, スポーツコンサルタント
- Niklas Persson, EC セクレタリー

## 議事録

議事録訂正、アイルランドより

- 6 ページ：大会スケジュールは完成していたがマネジングコミッティはその内容に懸念を示した。
- 11 ページ：アイルランドからの 2020 年 WC 主催立候補に関する資料は提出されていない、と言う部分の削除。2018 年ウィンター会議にて提出したが、その後対応されていなかった。

ウィマー会長：2020 年 WC の開催地決定は、2019 年ウィンター会議にて行う。入札は 2018 年 10 月 31 日締め切りとする。その後 11 月には各国からの入札内容を加盟国に配信する。今回の会議では 2020 年大会の内容についても審議するので、その内容に基づいて 2020 年大会開催の入札を準備する事。

アイルランドからの訂正を加え、2018年ウィンター会議の議事録を承認する。

発議：USA

セカンド：Switzerland

賛成: 13 (Australia, Canada, Czech Republic, England, France, Germany, Ireland, Italy, Japan, Spain, Sweden, Switzerland, USA)

反対: 0

棄権: 0

[参照：2018 WBTF Winter Board AGM\_Minutes.January 26-28, 2018.Amended.pdf]

## 報告事項

### 2019 インターナショナルカップ、IBTF グランプリ

フランスより 2019 インターナショナルカップ及びグランプリ大会に関する説明があった。

開催地：Limoges, France

会場: Zénith de Limoges Métropole

高さ: 最低で 15m

客席数: 4000

宿泊: ステイ・トゥ・プレイポリシー

IC は 2019 年 8 月 5 日～8 日。グランプリは 9 日～11 日。メジャレット種目は 8 月 9 日に実施する。

2019 年ウィンター会議は Limoges で開催。

[参照：IC2019.pdf]

### 2018 European Cup = 翻訳省略 =

Bernadette Doyne and Nicky O'Neill reported on the 2018 European Cup.

The 2018 European Cup was very well-supported and was a great competition. The BTSAI were excellent hosts for this competition. After the World Championship, Nicky will distribute a survey to the European countries to collect feedback on the 2018 competition and format – the findings from this survey will be presented at the 2019 Winter Meeting.

There were some issues related to the tabulation system. The decision taken by the European Commission at the 2018 Winter Meeting was adjusted afterward by the WBTF Executive Technical Committee and the impact of this decision was not fully incorporated by all concerned. This led to issues and problems at the competition – they were addressed but this was an avoidable problem.

The Stay to Play policy continues to create problems and there is concern that accommodation is too expensive as a result.

ENG: Host countries must be mindful of the overall cost of the competition. The Stay to Play policy should only be used to fund the competition itself and should not be used as an opportunity to fund a federation's operations for several years.

IRE: To be fully transparent, 10% was added to the hotel rates and this was done strictly to finance the competition itself – the cost of the venue, sound system and other competition-related expenses. The competition could not have been held without this source of revenue. Dublin is an expensive city.

ITA: The mandatory Stay to Play policy creates difficulty for visiting contingents when alternative accommodation is available that is cheaper. Staying for the entire week at a host hotel is an expensive proposition for athletes and their families when they might only be competing on one or two days.

The European Commission also held a meeting in Dublin on Tuesday July 3. Key items:

- New European Medals were presented and adopted
- The finances for the 2018 European Cup were presented and they anticipate a loss. This loss will be divided among the 18 European members and will be added as an assessment to their 2019 membership fees.
- Spain provided a presentation of their proposal to host the 2020 European Cup in Blanes on the Costa Brava Spain. This proposal was accepted.
- We must find other ways to have sufficient judges at all events as the present system is not working and is not fair to all countries. France proposed adding a levy to the spectator tickets for the purpose of funding judges – this topic should be added to the 2019 Winter Meeting agenda.

[Refer to attachment: 03 2018 Euro Commission Minutes Dublin.pdf]

## 2018 世界選手権大会

カレン・キャマーより 2018 年大会に関する最新情報が提供された。

ウィマー会長より、レジストレーション時に大会参加ワッペン配布枚数の誤りがあったとの報告があった。追加枚数が各国ボード代表者に配布された。

## メジャレット・タスクフォース

ニッキー・オニールとパオラ・デ・マルキが報告を行った。

この件に関しては WFNBT 役員と一緒に検討した。彼らはメジャレット種目を提供しているから。国によってメジャレット種目の内容は異なっており、視点やルールも異なる。今回は、なるべく多くの団体が参加でき、オープンで歓迎する雰囲気を出せるよう考慮した。

3 種目を設定した。

- トラディショナル・コア... フォーメーションとマーチングを主体とした種目で、ベーシックトワールのみを行う。
- パレード・コア... ストリートパレードに重点を置き、エーリアルやエクスチェンジ等のトワーリングも行える。ステーションナリーの演技には制約がある。
- エンターテイメント・コア... 背景、手具、器具等を使用できる自由なパフォーマンス。但し重点はバトントワーリングとする。

オープン部門も設け、WBTF や NBTA に属さない団体の出場も可能とする。メジャレット種目出場者や未加盟団体を歓迎するのが新種目導入の目的。

我々にとってこの種目は未知の分野。何団体程度出場を希望するのか、予想しようが無い。加盟国協会は出来るだけ多くの団体に出場を呼びかけることが重要。メジャレット団体に対しては、楽しい大会であるというメッセージを伝える必要がある。

**FRA:** 使用する装飾、背景、手具、器具などは、大会会場で使用可能なものかを確認する必要がある。

**Nicky:** 規程には使用する靴や器具は会場のルールに準ずる事、としている。

ウィマー会長: リモージュの会場の使用規定を至急確認する事。競技規定に記載すると共に、参加招待状にもこの説明を記載する必要がある。

**USA:** USTA ではパレード・コア種目やショー・コア種目がある。これらの種目は大会の出場できるのか。

**Sandi Wiemers: Yes** IBTF メジャレットルールで演技を行うのであれば出場できる。従って USTA のパレード・コアなどは簡単に IBTF のルールに合わせる事が可能。

**Paola de Marchi:** 次回の IBTF 会議において、審査内容を検討する。WBTF 公認審査員が簡単に審査内容に適應できるよう、確認する。

**Sandi Wiemers:** 加盟国に対し、国内でメジャレットとして活動している団体のコンタクト先を会長に提出する事。これらの団体に対し 2019 グランプリ大会開催を告知する必要がある。コンタクト先は 9 月 1 日までに報告する事。9 月 1 日には案内を発送する。

## GAISF 報告

Alfred La Mont より活動報告があった。

La Mont 氏とウィマー会長はスイス・ロザンヌで開催された 2 つに会議に出席した。一つは GAISF 主催の会議で、加盟を目指す 30 種目の団体が出席した。参加団体の内多くが設立間もなく未成熟な団体だった。GAISF が明確に示した方針は、単に既に認可されている種目から派生したバリエーション的な種目（例：アイス・サッカー連盟、実践射撃連盟）は一切加盟を受け付けない。また現在 GAISF に加盟している他種目団体から、新規加盟申請をする団体に対し反対意見を主張される場合もある、との説明もあった。

また個別会議においては、国際チアユニオン、国際体操連盟及び国際ダンススポーツ連盟から、バトントワーリングの新規加盟に対しては反論しないという同意書を取り付ける必要がある、との説明があった。また加盟国は最低でも 40 カ国を確保しなければならない。Alfredo は既に国際チアユニオンと国際体操連盟と連絡を取り、双方とも口頭においては、反論しないという同意を得ており、近い将来書面にて提出するとの事。これらの書面を入手した後、速やかに GAISF に提出し、その後国際ダンススポーツ連盟への交渉を始める。

又、新規加盟を目指す団体に対し「オブザーバー」会員と言う制度がある。年間 8000 スイスフランの加盟料で最低 2 年間加盟する事が条件。WBTF は既に組織も成熟しており、歴史もあり、ガバナンスも徹底している。そこで個別会議において加盟申請の担当者に対し、本当にオブザーバー会員になる必要があるのかを確認した。担当者の意見では、我々の申請書類の完成度は高く、また透明性もあるので（かなり好意的であった）、オブザーバー会員になったとしてもさほどのメリットは無いだろうとの事だった。

現在 WBTF がメジャレット団体へもアプローチしている事を Alfredo は高く評価した。新規加盟国獲得につながれば GAISF 加盟条件の 40 カ国加盟も困難ではない。

ITA: イタリアにおいてはスポーツ統括団体数の縮小が始まっている。従ってトワーリングは近い将来体操協会に統合されるであろう。

Alfredo: これは多くの国でおこっている現象。しかし GAISF もその状況は既に把握しており、加盟申請に関してはマイナスに働かないよう留意している。

Sandi Wiemers: GAIFS は WBTF 加盟国の内、既に 8 カ国が自国のオリンピック委員会に加盟している事に目をとめていた。今後も国内でオリンピック委員会への加盟を目指してもらいたい。国内での組織運営も重要なポイントとなる。

## 新規事項

### 新規加盟国

ボード動議 #2 – ブルガリア加盟承認

可決

ブルガリアを暫定会員として承認する。

発議: USA

セカンド: Sweden

賛成: 13 (Australia, Canada, Czech Republic, England, France, Germany, Ireland, Italy, Japan, Spain, Sweden, Switzerland, USA)

反対: 0

棄権: 0

### 世界選手権大会開催方法 – エグゼクティブ動議 2

IRE: 追加の日程が何日間なのかは、会場費等の事情があるので開催国が決定すべき。日程が増えると審査員、ボランティア、宿泊等様々なコストがかかる。それらの追加経費が、本当に延長した大会で回収できるのかを開催国は検討すべき。

ENG: 大会を 1 日追加したとしてもさほどの収入は期待できない。それより世界選手権大会の参加者数を増やす事を検討すべき。提案としては：

1. 決勝進出チーム数を 6 チーム以上に増やす。決勝戦に残れない国はそもそもチーム種目には出場しない。
2. 世界選手権大会でもアーティスティックグループ種目を追加する。
3. もし今後も世界選手権大会が縮小する傾向にあれば、大会開催を 3 日間にし、経費の削減を行う。

FRA: 大会中に小さな講習会を開催するより、大会前に丸 1 日の講習会を開催してはどうか。

ITA: 大会の長期化は望まない。何らかの方法で経費削減を検討すべき。

JPN: 提案に賛成する。IC オープン大会を世界選手権後に行えば、参加する選手は WC とは異なった層であり、WC を観戦しながら自身も IC に出場できる。

SPN: 例えばジュニアチーム、シニアチームなどを検討してはどうか。

**JPN:** 2016 パンパシフィック大会は、WC 年に開催されたにもかかわらず、かなりの人数が参加した。WC に出場する選手とは根本的に異なった選手が出場するはず。

**ENG:** 特にヨーロッパ加盟国の選手は WC に IC 種目を追加する事に興味を持たない。なぜなら、その数週間前にはヨーロッパアンカップが開催され、同種目を実施されるから。

**SWE:** なぜ多くの加盟国は選手団全員を派遣しないか、まず考えるべきでは。

**Sandi Wiemers:** 各国によって事情は異なる。しかし世界選手権参加にそれほど価値を感じない国が存在するのも確かな事。特に技術レベルが選手権大会レベルまで達していない国。

**SWI:** 追加日程による大会審査員の負担についても考慮する必要がある。

**Sandi Wiemers:** 2020 世界選手権大会開催際に向け、入札を希望する国は。

- アイルランド
- イングランド
- オランダ
- イタリア

**Sandi Wiemers:** この国の中で追加の大会日程を希望するのは？オランダは希望。その他は追加日程の有無にかかわらず入札を希望。

**Sandi Wiemers:** 現段階ではこの審議は終了し、追加日程無しでの大会入札を行う。

## テクニカルからの提案事項

パオラ・デ・マルキよりテクニカル委員会からの提案があった。

### 3 バトントリプルトスの定義について

テクニカル提案 4 は 3 バトンコンテンツリストリクシオンについて

#### ボード動議#3 – 3 バトンコンテンツリストリクシオンの変更

可決

テクニカル提案：

3 バトンコンテンツリストリクシオンの変更を提案する：

1. B レベルトリプルトスは 1 回のみ実施できる。
2. A レベルトリプルトスは 2 回のみ実施できる。

マニュアル内のコンテンツリストリクシオンチャートに定義を追加する：

トリプルトス：3 本全てのバトンが 1 本ずつ順にリリースされ、キャッチは全てのバトンが空中に上がった後に行う、又は 3 本のバトンを同時にリリースする事。いずれのリリースにせよ、キャッチの順番に決まりはない。

有効期日：2018 年 9 月 1 日

提案：USA

セカンド：Norway

全会一致

発議：USA

セカンド：Sweden

賛成：13 (Australia, Canada, Czech Republic, England, France, Germany, Ireland, Italy, Japan, Spain, Sweden, Switzerland, USA)

反対：0

棄権：0

パオラより男性選手のグランドジュッテの説明文が紹介された：

男性のグランドジュッテはパワー、力強さ、高さを重視する。

### ジュニアコンパルソリーについて

テクニカル提案 5。ジュニアコンパルソリーに代えて、ショートプログラムの必須エレメントのみを実施する。

FRA: いつからの実施か。

PdM: 有効は 2018 年 9 月 1 日。2019 年ヨーロッパ選手権大会より実施予定。

JPN: ジュニアとシニアが同時に演技し、シニアがショートプログラムでエレメントを行う際ジュニアも行い、エレメント実施以外の時間は停止し待っている状態は、あまりにも不自然。それであればアクセサリマテリアルもジュニアに実施させた方がよい。

PdM: 段階的に導入するのが望ましいと思う。まずは音楽の中でエレメントのみを実施させる方向で検討している。

Sandi Wiemers: これをすぐに導入するのは急ぎ過ぎているのでは。全体図がまだ見えておらず、問題点があるかも含めて十分検討すべき。1 月の会議で再度審議してはどうか。

**FRA:** ジュニア部門でのショートプログラム実施に関しては今までも審議してきたが、今この時点で決定するには、大きな変更をあまりにも急ぎ過ぎている。

**ENG:** テクニカル会議でも検討されたが、ジュニアにとって大きな変化はコンパルソリーのみ。その他 7 つのエレメントの内 5 つはコンパルソリーとほぼ同様で、残り 2 つ（イリュージョンとグランドジュッテ）は既にフリースタイルでもほとんどの選手が実施しているスキル。

**JPN:** 変更は単純の様に聞こえるが、表面下では様々な問題が想定される。ジュニアがショートプログラムを実施する事には原則賛成だが、2020年WCからの規定変更とはあまりにも急すぎる。

**FRA:** テクニカル委員会で問題無しと判断したのであれば、我々も問題無しと判断する。

#### ボード動議 #4 – ジュニアのコンパルソリー

可決

ジュニアのコンパルソリー内容をショートプログラムのエレメントへと変更する。

##### テクニカル提案:

世界及びヨーロッパ選手権大会におけるジュニア男女部門の選手はコンパルソリーの代わりにショートプログラムのエレメントを実施する。ジュニア女子はシニア女子の曲、ジュニア男子はシニア男子の曲を用いる。選手はグランドジュッテをコーナーから行いフロア中央へ移動。その後全てのエレメントは審査員に向かって実施する。アクセサリーマテリアルは実施しない。

選手は各エレメント終了後、開始位置に戻って良い。動作の開始および終了方法は指定された方法を行う。

審査基準はショートプログラムと同様とするが、コンポジションとパフォーマンスの審査は行わない。

有効期日：2018年9月1日

提案: Norway  
セカンド: Sweden  
全会一致

発議: USA  
セカンド: Sweden

賛成: 8 (Australia, Canada, England, France, Germany, Spain, Sweden, Switzerland)

反対: 3 (Japan, Italy, USA)

棄権: 1 (Czech Republic)

欠席: 1 (Ireland)

#### 大会審査員と各国代表団からの分離

テクニカルより、大会審査員は自国の代表団から分離されるべきとの提案があった。

- 大会審査員は代表団集合写真には加わらない。
- 代表団ホテルとは別のホテルに宿泊し、宿泊費はWBTFが負担する。

渡航費の負担は自国の協会とする。

**FRA:** 審査員の滞在費は大会チケット等に上乗せして徴収する事も可能。



**Sandi Wiemers:** 滞在費の確保に関する審議を行うのには今回は時間が無い。この件に関しては継続審議とし、2019年ウィンター会議の議題とする。これに対し反対意見は無し。

### コンパルソリー及びショートプログラムのコスチューム

テクニカルよりコンパルソリー及びショートプログラムのコスチュームは無地の黒色に統一するとの提案があった。男性はワン又はツーピース、ズボン、スリーブは自由。女性はデザインや素材は自由としたレオタード。

**Sandi Wiemers:** 提案の理由としては、国で指定されたレオタードが全ての選手の体型にはフィットしないから。またどの国出身の選手かをカモフラージュする為。

日本からは2019年ウィンター会議まで継続審議としたい、との申し出があった。これに対し反対意見は無し。

### クリニシヤンの講師料について

ジャッジコミッティより、クリニシヤンの講師料に関する改定案が提出された。

**Sandi Wiemers:** この件に関する審議を行うのには今回は時間が無い。この件に関しては継続審議とし、2019年ウィンター会議の議題とする。これに対し反対意見は無し。

## 大会開催予定

2019 ヨーロッパ選手権大会：フランス Vendespace (2016 E カップと同会場),7月1日～7日

2020 パンパシフィックカップ：カナダ・アルバータ州カルガリー

2020 ヨーロピアンカップ：スペイン Blanes

2020 世界選手権大会：2019年ウィンター会議で入札を行い、決定する。入札は2018年10月31日締め切りとする。

2021 IBTF 世界選手権大会：入札受付中

## ステイトアップレイ・ポリシーについて

2019 ウィンター会議まで 継続審議

## アナウンスメント

杉浦紀子日本代表ボードよりボード会議に対してアナウンスメントがあった

今回のボード会議で、私が出席する最後の会議となる。WBTF との関わりは審査員として始まり、その後テクニカルアドバイザー、ボード代表として長年に渡った。ウィマー会長をはじめ世界各国のリーダー達と仕事のできた事を大変光栄に思う

WBTF 創設時より日本は、協会の理事長が代表としてボード会議に出席してきた。これは長年に渡る日本の伝統であった。しかし私自身がボード代表として関わる中、本来日本を代表するボードは英語によるコミュニケーションが重要である事を再認識した。英語によるコミュニケーション能力はオリンピックを目指した普及・発展、又他国のリーダー達と意見を交わす為にも大変重要なスキルである。

従って今までの伝統にこだわる事を改め、当協会の副理事長であり国際部長である土屋素明を日本代表ボードとすることに決めた。この決定は BTAJ 理事会で既に承認されたものである。2018 年の会計年度末までは私自身が継続してボード代表の任に就くが、2019 年 1 月からは土屋が代表となる。

この場を借りて、報告と共に長年に渡る感謝の思いを各国代表に伝える。

杉浦紀子 BTAJ 理事長

ボード動議 #5 – 閉会

可決

2018 サマーボード会議を閉会する。

発議: USA

セカンド: Scotland

サマー会議 閉会

Respectfully Submitted:

Jeff Johnson

WBTF Secretary